



WASEDA ROPE

平成 28 年度 オリンピック・パラリンピック教育事業
推進校実施報告書

- 1 学校名 : 宇土市立鶴城中学校
- 2 実施日時 : 2017 (平成 29) 年 2 月 6 日 (月)
- 3 対象 : 1・2 年生 (515 名)
- 4 派遣オリンピック : 川上 優子さん (陸上競技 アトランタオリンピック (1996) 入賞 シドニーオリンピック (2000) 出場)
- 5 授業内容 : 講演

2017 (平成 29) 年 2 月 6 日 (月) に、宇土市立鶴城中学校にて、1・2 年生 515 名を対象とし、陸上競技の日本代表選手として 2 度のオリンピックに出場された川上優子さんにご講演いただきました。

講演では、「失敗には 2 種類ある」、「チャンスは自分で決める」、「自分を信じ続ける」という 3 つのキーワードを軸にお話しされました。

1 つ目のキーワード「失敗には 2 種類ある」では、挑戦した上での失敗と挑戦しなかった失敗とを比較し、何事にも挑戦することの大切さについてお話しされました。川上さんは、具体的に 1 万メートルのレースを例にしながら、必死に首位の選手にくらいついた結果の 2 位と守りのレース展開での 2 位とは、同じ 2 位であっても全く違うと述べられました。その理由について、川上さんは、前者は、今後の課題が具体的にわかる一方で、後者は、わからない点を挙げられました。このように、何事に対しても、積極的に挑戦することによって、自らが主体的に次々と課題を見つけ出し、それを克服するプロセスの大切さについてお話しされました。

2 つ目のキーワード「チャンスは自分で決める」では、チャンスは「つかむ」ものではなく、「決める」ものであるという川上さん自身のお考えについてお話しされました。川上さんは、何かに取り組む際に、なんとなくではなく、自分の夢や目的を実現するために今何ができるかということを中心に考えて行動することの大切さについて語られました。

3 つ目のキーワード「自分を信じ続ける」では、川上さん自身の怪我の経験を交えながらお話しされました。川上さんは、怪我で大会に出場できない期間も自分だけは勝てると信じていたそうです。たとえ誰からも信じられない状況であったとしても、自分だけは自分のことを信じてリハビリに取り組んでいたとお話しされました。

講演後の質疑応答では、生徒から「どうやって自分を追い込むのか」という質問がありました。この質問に対して、川上さんは、まずは今の自分にできることを 1 つでもいいから全力で取り組むことが大切だと述べられました。そして、できることを 1 つずつ増やしていくことで、少しずつ自分を追い込んでいくことができるとお話しされました。

生徒の事後アンケートでは、「心が折れそうになったり、自分に自信をなくしたりしたときは、自分を信じて目標を立てて頑張ろうと思いました」、「失敗してもいいから挑戦してみようと思いました」といった記述が多くみられ、生徒たちが、川上さんのお話を通して、目標をもつことや挑戦することの大切

さを学んでいる様子が窺えました。

6 授業の様子



講演の様子



質疑応答の様子



集合写真